

2025年度 World Rowing通常総会 (報告)



国際委員会
2025年11月28日

目次

1. 会議の概要
2. World Rowingが考える未来 (ロランド会長)
3. World Rowingが推進する事業① (ビンセント専務理事)
4. // ② (ビンセント専務理事)
5. 競技種目に関する改革 (エバ・サント 理事)
6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)
7. インドアローイングの最新状況 (フィリップ インドア委員長)

1. 会議の概要

会議名 : 2025 World Rowing Congress (2025 WR通常総会)

日時 : 2025/9/29

開催地 : 上海・中国とonline

参加メンバー : 坂田会長、若井理事、安井理事

会議資料 : [2025-WR-Ordinary-Congress-Agenda-Papers-updated-29-July-v2.pdf](#)

会議動画 : <https://www.youtube.com/watch?v=jD0fpxyOptM&t=13693s>

注1: クラシック・コースタル・パラの各担当委員長は、オリンピック・パラリンピック等に関する施策策定にあたっては、主なポイントは、上記動画より抜粋/解説して居ますが、全体を網羅してません。
各委員会で動画視聴等、情報収集をお願い致します。

注2: World Rowingを含め外部環境は常時進捗して居ます。
この為、本資料は必ずしも最新状況を表すものではありません。

2. World Rowingが考える未来 (ロランド会長)

1. 主な成果と取り組み

(1) オリンピック戦略の成功

パリ2024大会ではボート競技のプログラムを維持。

ロス2028大会では「ビーチスプリント形式のコースタルローイング」が正式採用。

→ 各国際連盟より、17の新規種目の追加依頼がある中で唯一の新規採用種目。

選手の出場枠人数(アスリートクォータ)も確保。

(2) クラシックローイングの改革(SCRプロジェクト)

- ・伝統的なボート競技の再構築を目的とした抜本的見直しを実施。

- ・ワールドカップの参加減少や注目度低下を受け、大会形式・日程・実況放送・観客目線を全面的に再検討。

- ・イベント数を減らし、人気種目に集中することも検討。

- ・混合種目(男女ミックス)を導入し、ジェンダー平等を推進。

- ・競技進行を分かりやすくすることで、観戦・実況・運営のコストを軽減。

(3) 新たなカレンダーとインセンティブ制度

より一貫性があり魅力的な国際大会スケジュールを設計。

トップ選手が積極的に参加できる仕組みを導入予定。

2. World Rowingが考える未来 (ロランド会長)

(4) Coastal Rowingの発展に向けて

- ・五輪正式種目化(LA2028)に向けて準備を強化。
- ・新しい観客層へのアピールを目的に、イベント演出も刷新。

(5) インドアローイングの拡大

- ・フィットネスや健康志向の流れに乗り、誰でも参加できるローイング競技として発展。
- ・デジタル連携型の「Connected Rowing」や、eスポーツ五輪への採用を目指してIOCと継続協議。

(6) 組織運営・ガバナンス改革

- ・国際標準(ISO)から高評価を受ける透明な運営。
- ・ガバナンス構造や規約を近代化し、包摂性・公正性・持続可能性を強化。
- ・執行部や理事会メンバーの交代、新任幹部の登用。
- ・副会長、前任事務局長への感謝を表明。

(7) 財政の安定

- ・インフレや為替変動などの中でも安定を維持。
- ・経費削減と新たな収益源の開拓を進めた。

2. World Rowingが考える未来 (ロランド会長)

2. 今後の重点方針(2025～2029)

- ・ LA2028大会でのコースタルローイング成功を最優先。
- ・ クラシックローイングの再活性化(SCR成果の実行)。
- ・ インドア/コネクテッドローイングを拡大し、eスポーツ五輪での採用を実現。
- ・ デジタル発信、ファン層拡大、新興国普及を推進。
- ・ ガバナンスと財務の強化を継続。
- ・ アスリート・加盟連盟・スポンサーなどとの協力体制を強化。

3. 結び

「ローイング競技、そして、価値観を守りながら、未来に向けて進化させることが使命」
「困難は多いが、世界中の仲間との団結と情熱で乗り越えられる」

3. World Rowingが推進する事業① (ビンセント専務理事)

1. 全体方針と目的

World Rowingは現在、15年計画の変革プロジェクトを進行中(2021～2036年)。

目標:ローイング競技の「リーチ」「イメージ」「収益」を拡大し、2036年の夏季五輪までに新世代へスポーツの魅力を広げること。

2025年はその4年目にあたり、今後4年間の重点施策を本格的に実行する段階。

2. 変革の対象と方向性対象はローイング競技の3分野:

- ・クラシック・ローイング
- ・コースタル・ローイング
- ・コネクテッド／インドア・ローイング(バーチャル)

これに加え、World Rowing本体の組織等の改革/取組も含まれる。

3. 変革の目的(12の優先課題)

- ・ローイング競技の人気と参加人口の拡大
- ・新しいファン層・若年層とのエンゲージメント強化
- ・ブランド・メディア・収益面の構造改革

これらを包括的に達成するためのロードマップはすでに策定・共有済み。

3. World Rowingが推進する事業① (ビンセント専務理事)

3. 変革の目的(12の優先課題)

- ・ローイング競技の人気と参加人口の拡大
- ・新しいファン層・若年層とのエンゲージメント強化
- ・ブランド・メディア・収益面の構造改革

これらを包括的に達成するためのロードマップがすでに策定・共有済み。

4. 現在までの成果と今後の計画最初の3年間(2021～2024)の成果は「通常総会」で発表済み(オンラインで公開中)。

2025年以降の4年間の重点プロジェクトは、 3月の「臨時総会(Quadrennial Congress)」で提示済み。

各分野ごとの4年間のロードマップが策定されており、オンラインで閲覧可能。

5. 今後の発表予定・関連プロジェクト(発表の構成説明)

- ・オリンピック・プログラムおよびLA2028予選方式(ナタリー・フィリップスによる報告)
- ・戦略的イベントおよびカレンダー再編プロジェクト(エバ・サント氏が発表予定)
 - 選手・チームランキング制度の開発も含む重要施策。
- ・「上海レガシー」プロジェクトの進捗報告(2件のうち1件を後ほど報告)
- ・広報・コンテンツ制作・スポンサーシップ販売に関する最新状況(午後に説明)

3. World Rowingが推進する事業① (ビンセント専務理事)

6. 各分野の主な更新

- ・コースタル・ローイング:

2026年ダカール大会・2028年ロス五輪に向けた準備が今朝のセッションで報告済み。

- ・インドア・ローイング(フィリップ・ユビッチ委員長):

- バーチャルシリーズ
- オリンピックeスポーツ大会関連
- 日本スポーツ振興センターとの連携
- シンガポール「Versaチャレンジ決勝」
- スポンサーシップ・コンテンツ制作に関する報告を予定。

- ・World Rowing本部(コーポレート部門):

- WWFとのパートナーシップ
- 上海での「House of Rowing」プロジェクト
- コンフェデレーション(地域連盟)との協働事業報告(ヌイザ・イシュカ氏が説明)

7. 総括

これからの各報告はすべて、World Rowingの変革ロードマップの一環として実施中のプロジェクト。

今後4年間(～2028年)に向け、組織・競技・メディア・デジタルの各分野で具体的な成果を出していく。

4. World Rowingが推進する事業② (ビンセント専務理事)

1. World Rowing 上海レガシー・プロジェクトおよび今後の戦略概要 (World Rowing – Shanghai Legacy & Strategic Initiatives Report)

①プロジェクト概要

World Rowingは、2025年上海世界選手権の開催を契機に、中国・上海との長期的連携を強化する「上海レガシー・プロジェクト」を発表した。

本件はローイング競技の発展と普及、商業的基盤の強化、そして持続可能なスポーツ環境の構築を目的としている。上海は19世紀からローイング文化が根付く都市であり、現在も国際大会を通じて高い注目を集めている。

②第一の柱：上海スプリント大会 (Shanghai Sprint Regatta)

- ・ 2026年から新設されるこの大会は、男女および混合4種目で構成され、世界選手権上位チームや中国代表など8チーム(計88名)が出場。
- ・ 500mスプリント形式で、今後5年間(～2030年)継続開催される予定。
- ・ 選手への経済支援や賞金制度も整備し、国際的に魅力ある恒例イベントとして定着を目指す。開催運営は、世界選手権を成功させた同組織委員会が継続して担当。

③第二の柱：常設展示施設とWRアジア拠点の設立

上海市内にローイング競技を紹介する常設展示施設と、World Rowingのアジア地域サテライトオフィスを設立する構想が進行中。スポーツ振興、教育・広報、商業活動、環境保全など多面的な拠点として機能する見込み。

候補地選定を進め、2026年中の正式発表を目指している。

4. World Rowingが推進する事業② (ビンセント専務理事)

④WRからの協力要請:4つの重点分野

A: スポンサーシップ拡大

Havas Play社を新たにグローバル販売代理店として起用。

電通スポーツ(日本)など各国機関と連携し、収益共有型モデルを構築。

B: コンテンツ・広報連携

欧州放送連合(EBU)との契約拡大によりSNSやライブ配信を強化。

「メディアハウス構想」で各国連盟と映像共有を推進。

C: Healthy Waters Alliance

WWFと協働し、河川・湖沼・沿岸の環境保全活動を展開。

各国連盟の参画を呼びかけ。

D: World Rowing Award2025

2025年1月24日、ローザンヌのオリンピック博物館で開催予定。

各国からの推薦を募集。

総括

上海を新成長拠点と位置づけ、国際的な認知拡大・環境保全・商業基盤の強化を柱に、持続的な発展を目指す。これらの取組は、国際ローイングコミュニティへ新たな価値と協働の機会をもたらすものとなる。

5.競技種目に関する改革

(エバ・サント理事)

1 概要

World Rowingは、競技の持続的発展と五輪への貢献を目的に、「戦略的イベント・カレンダー見直し(SECR)」を実施している。
対象期間は2027～2028年で、ワールドカップ構成の最適化、世界ランキング制度の導入、競技フォーマットの近代化を柱とする。

2 大会改革の進捗

- ・混合種目(Mix8+／Mix2X)を世界選手権で導入し成功を収めた。
- ・表彰式や競技間隔の改善など、観客体験を重視した大会運営を推進中。
- ・新たな進行システムで全レースをより意味のあるものにする方針を継続。

3 2027～2028年シーズン構成案

- ・ワールドカップを年間3大会体制とする計画。
- ・五輪・パラ五輪最終予選をWC #2の前に開催。
- ・WC #3で1,500mレースを試験的に導入し、LA2028への準備を強化。
- ・開催地選定や大会間移動の効率化も重点課題とする。

4 世界ランキング制度(Ranking Project)

- ・成績と対戦相手の実力を基準にした新ランキング制度を2025年冬に試験導入予定し、将来的に世界選手権・五輪出場資格への連動を検討。
- ・年間を通じた競技価値の可視化と、選手・観客双方が積極的にかかわることを目指す。

5.競技種目に関する改革

(エバ・サント理事)

5 今後の方向性

- ・ワールドカップシリーズへの参加促進策・報奨制度を導入予定。
 - ・世界選手権を「予選大会」と位置づけ、五輪との連携を強化。
 - ・各地域大会を統合し、世界規模での大会体系を再構築。
- 2026年アムステルダム総会で最終提案を発表予定。

6 まとめ

これらの改革は、ローイング競技の魅力・競争力・財務基盤を強化し、次世代に向けた国際競技としての地位を確立するための重要なステップである。

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

2026年ユースオリンピック(ダカール／セネガル)について

現地調査： 7月にセネガル・サリーのビーチで開催地調査を実施。

ダカール市中心部から車で約1時間。

競技概要： 開催期間：10月29日から4日間(初日が開会式)

トレーニングは2日間実施。

種目： ビーチスプリント(男子・女子シングル、混合ダブルスカル)

参加方法： 予選なしで、各国オリンピック委員会(NOC)の意思表示により参加を決定。

参加希望： 計82ヶ国(アフリカ15、アメリカ14、アジア19、ヨーロッパ31、オセアニア3)

参加条件： ・年齢(2008年11月14日以降生まれ)

・各NOC最大3名(男女各32名、計64名)

・競技経験・安全性・水泳能力(50m泳げて3分間浮ける)が必須

・活発なユース向けビーチスプリントプログラムの存在が条件

次のステップ：IOCと協議し、資格確認・大陸間バランス・開催国枠・ジェンダー平等などの原則に基づき参加国を確定。

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

○2028年ロサンゼルス・オリンピックについて

- ・ローイング競技スポーツマネージャー: WRマット・エバンスが着任
- ・日程: クラシック: 7月15～22日 (予備日23日) コースタル: 7月24～25日 (予備日なし)
但し、発艇時刻/レーススケジュールは潮汐の影響により調整中
- ・決勝: 8日間で6日がメダルデーとなる予定
- ・レーン幅変更: 放送・安全面から幅を12.5m→12mに縮小

LA28 Olympic dates

ROW = classic
RCB = coastal

- Competition dates
 - ROW – 15 July to 22 July – (spare day 23 July)
 - RCB – 24 July to 25 July
- Training dates still to be confirmed for ROW and RCB

2025 World Rowing Ordinary Congress

World Rowing
チャンネル登録者数 6.81万人

チャンネル登録

13 共有 オフライン Thanks

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

○2028年ロサンゼルス・オリンピックについて

- 選手枠(クォータ)の案: 合計502名 (クラシック:438名/コースタル:64名)
クラシックとコースタルにダブルエントリーする選手が出た場合、1名とカウントし、余剰枠の取扱いに関しては、WRにて調整中。



Olympic Athlete Quota & Allocation

- Principles to find the balance between:
 - Excellence
 - Universality
 - Attractive programme
- Overall athlete quota for rowing 502 athletes
 - ROW - 438 athletes (219 men / 219 women)
 - RCB - 64 athletes (32 men / 32 women)

And as with Paris, we have an

3:38:14 / 7:31:14

2025 World Rowing Ordinary Congress

World Rowing
チャンネル登録者数 6.81万人

チャンネル登録

13

共有

オフライン

Thanks

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

○2024年パリ・オリンピック 出場選手枠・配分状況(参考資料)

Olympic Athlete Quota & Allocation – ROW Paris 2024

Number of boat quota places available per qualification event
(subject to the reallocation of unused quota places).

		Continental Qualification Regattas				Final Qualif Regatta	Total Boats	Total Athletes
	2023 World Champs	Asia/ Oceania	Africa	Americas	European			
Men								
Single Sculls (1x)	9	5	5	5	3	2	29	29
Pair (2-)	11	-	-	-		2	13	26
Double Sculls (2x)	11	-	-	-		2	13	26
Four (4-)	7	-	-	-		2	9	36
Quadruple Sculls (4x)	7	-	-	-		2	9	36
Eight (8+)	5	-	-	-		2	7	63
Men Lightweight								
Double Sculls (L2x)	7	2	1	2	2	2	16	32
Other								
Host Country Places (1x)							1	1
Universality Places (1x)							2	2
Total Men's Boats	57	7	6	7	5	14	99	251

For the classic all

2025 World Rowing Ordinary Congress

World Rowing
チャンネル登録者数 6.81万人

チャンネル登録

13 共有 オフライン Thanks

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

○2028年ロサンゼルス・オリンピック

・IOCへ提案予定のクラシック配分案:

シングルスカル(1X)大陸枠案はパリ同様 (アジア・オセアニア5、アフリカ5、米州5、欧州3)
1X以外は、前年世界選手権か世界最終予選にて出場権獲得(大陸予選枠はゼロ)

	2027 World Champs	Asia/Oceania	Africa	Americas	European	Final Qualif Regatta	Universality Places and Host Country	Qualified Boats	Total quota Athletes	Maximum num of boats
Men or Women										
Single Sculls (1x)	10	5	5	5	3	2	3	33	33	36
Pair (2-)	10	-	-	-	-	2		12	24	18
Double Sculls (2x)	10	-	-	-	-	2		12	24	18
Four (4-)	7	-	-	-	-	2		9	36	12
Quadruple Sculls (4x)	7	-	-	-	-	2		9	36	12
Eight (8+)	5	-	-	-	-	2		7	63	12
Other										
Development Countries								0	0	
Intermediate										
Large Team								0	0	
Total Boats	49	5	5	5	3	12		82	216	

Quotas. This is the proposal that Waldron is putting forward to the IOC.

上記表を転記	艇数の案 (男女毎に適用)							上記表を転記	選手数の案 (男女毎に適用)						
種目	1X	2-	2X	4-	4X	8+	合計	種目	1X	2-	2X	4-	4X	8+	合計
27世界選手権	10	10	10	7	7	5	49	27世界選手権	10	20	20	28	28	45	151
各大陸予選総数	18						18	各大陸予選総数	18						18
世界最終予選	2	2	2	2	2	2	12	世界最終予選	2	4	4	8	8	18	44
開発等特別枠	3						3	開発等特別枠	3						3
計	33	12	12	9	9	7	82	計	33	24	24	36	36	63	216

総枠219との
差3名は
別途調整中

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

○2028年ロサンゼルス・オリンピックについて

・IOCへ提案予定のコースタル配分案:

世界大会 (Beach Sprint Finals) から6枠、各大陸2枠 (オセアニアは1枠)

-参加制限: 各NOC最大2名 (男女1名ずつ)、ソロとダブルでの兼出場可

-1日目: ソロ / 2日目: 混合ダブル

・特記事項:

・同一選手がクラシックとコースタルの両方で出場資格を得た場合、1名分の配分枠とする。余剰枠は「卓越性」「普遍性」「日程調整」等の基準で再配分予定。

・予選枠はWRBSFとランキングシステムとの間に関連性ある可能性有。要注意。

Olympic Athlete Quota & Allocation - RCB										
WRBSF Focus										
Boat Class	2027 WRBSF	Continental Qualification (existing events e.g. continental Games)					Host Nation	Universality / Tripartite	Total	Total
		Africa	Americas	Asia	Oceania	Europe			Boats	Athletes
Men's Solo (M1x)	6	2	2	2	1	2	1	1	17	17
Women's Solo (W1x)	6	2	2	2	1	2	1	1	17	17
Mixed Double Sculls (Mix2x)	6	2	2	2	1	2	0	0	15	30
Total									49	64

6. 五輪を含む、各大会などへの準備状況 (ナタリーイベントMGR)

○パラリンピック

選手枠: 合計104名(コックスは計算対象としない)

種目の案: PR1男子・女子シングル、PR2混合ダブル、PR3混合ダブル、PR3混合フォア

配分の案: パリ大会と同一の原則で実施。

日程案: 8月18～20日(21日予備日)

競技バランスの観点から、休養日を設けず3日間連続で実施予定。

Paralympic Athlete Quota & Allocation

Boat Class	2027						Host Country / Bipartite (number of athletes)
	WRCH	Asia/Oceania	Americas	Africa	Europe	FPQR	
PR1M1x	7	1	1	1	1	1	
PR1W1x	7	1	1	1	1	1	
PR2Mix2x	6					2	
PR3Mix2x	5	1	1	1	1	1	
PR3Mix4+	6				0	2	
Undefined							12
Total Athletes	104						

7. インドアローイングの最新状況 (フィリップインドア委員長)

1. 組織体制・・・WR職員の体制

インドア・マネージャー: ジュリエット・デュシマン(仏連盟出身)

戦略プロジェクト: マット・ドレイパー(新イベント開発)

放送・マーケティング支援: クリスチャン&ケビン

2. 競技の変化

仮想空間(バーチャル空間)・ゲーム性を取り入れた「体験型ローイング」へ進化
健康・ウェルネス層や若年層への訴求拡大

3. 2025年の主要イベント

- ・バーチャル世界選手権(2月): 73ヶ国・1,400名参加。新予選制度導入。
- ・バーチャルシリーズ: 4つの月次チャレンジ開催中。第4回「Heartbeat」実施中。
- ・Singapore Super 60大会(*): 全国60秒チャレンジ+Versa決勝を開催予定。

(*) <https://worldrowingsuper60singapore.com/>

4. 2026年以降の展望

- ・2月: 新種目(1分・1,000m・5,000m)を導入したバーチャル世界選手権
- ・東京でのVirtual Sports Forumを継続(JSCと連携)
- ・バーチャルシリーズ拡大(全6戦)
- ・アムステルダム2026との連携検討
- ・年末: 対面型世界選手権の開催地を公募

7. インドアローイングの最新状況 (フィリップインドア委員長)

5. 経済・社会的効果

プラハ大会では約2,500人参加、1ドル＝4.4倍の経済波及効果
地域経済・観光振興にも寄与

6. eスポーツ分野

- ・2024年末にIOCへWorld Rowing eスポーツ形式を提案
- ・2027年「オリンピックeスポーツ大会」に向け準備中
- ・各国連盟とNOCが協働し、体験イベント・仮想コミュニティ・大会を展開予定

7. パートナーシップ

- ・Concept2(主要パートナー)
- ・JSC(研究協力)、EXR(仮想アプリ)、Agata(eスポーツ提携)

8. 今後の計画

- ・インドア・ローイング調査実施中
- ・マシン・コーチ認証制度、インドア会員制度を検討
- ・新たなスポンサー・パートナーを募集中